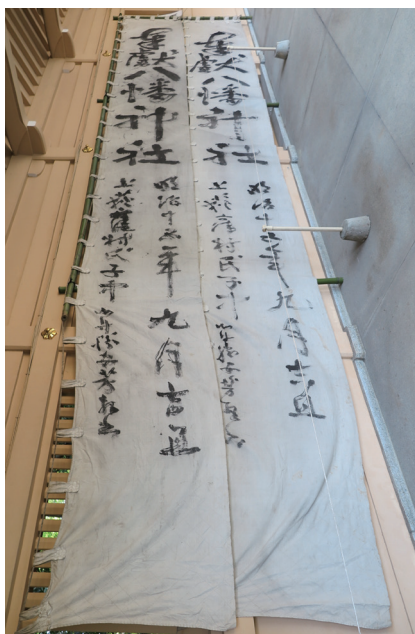


勝海舟筆荻窪八幡神社大幟



- 〔指定年月日〕 平成二八年三月二三日
- 〔種 別〕 指定有形文化財（書跡）
- 〔名 称〕 勝海舟筆荻窪八幡神社大幟
- 〔点 数〕 一対
- 〔所有者等〕 荻窪八幡神社
- 〔所在地等〕 上荻四―一九―二

指定有形文化財（書跡）

勝海舟筆荻窪八幡神社大幟

幕臣で明治期の政治家、勝海舟（一八二三〜一八九九）直筆の大幟で、上荻窪村の氏子から荻窪八幡神社に奉納された。寸法は、縦九一〇・五cm、横一〇一cmである。『荻窪八幡由緒』によれば、当時の神職であった小俣金重に男子が生まれた記念の品とするため、氏子らが海舟邸（現、港区赤坂六―六一―四）水川小学校跡地を訪れて揮毫を依頼、海舟はミゴ箆で一氣に字を書き上げたと伝わる。

海舟の日記である「海舟日記」には、「上荻窪村、幟出来二付、渡し遣わず」（明治一五年九月九日条）、「八幡幟認め遣わし候礼、端物料持参」（同月一四日条）とあり、海舟側の記録からも同神社の大幟への関わりが確認できる。また講談社版の『勝海舟全集』別巻は、海舟の揮毫資料として同社大幟の翻刻を掲載している。「海舟日記」の記述のほか、講談社版『勝海舟全集』にも収録されている荻窪八幡神社の大幟は、文献資料上においても、比較的知られた資料と考えられる。

海舟揮毫の幟資料は、資料形態から、①直筆の幟、②幟作成用の和紙原本、③原本をもとに作成された幟、の三種類に分類できる。このうち、本資料は①直筆の幟、に該当する。

大幟の筆跡は「海舟日記」をはじめとする関連資料や、海舟筆とされる他の幟資料と概ね似通っている。通常の筆による筆跡と、幟への揮毫に用いる大筆の筆跡を似せることは現実的でない上、幟資料は売買が想定されるものではないことから、海舟の真筆による幟と考えられる。

【文化財所在地】



荻窪八幡神社所蔵の大幟は、勝海舟が直接布地へ揮毫を行った真筆の幟と考えられ、講談社版『勝海舟全集』も真筆として収録している。現存する海舟筆の幟のなかでも、比較的認知された資料といえるだけでなく、「海舟日記」にも関連の記述が確認できる点で、特に希少である。

現在は、三年一度の大祭時にのみ、境内の廻廊で展示・公開が行われている。